

2022年8月4日 株式会社 昭文社ホールディングス
株式会社昭文社

信頼のブランド「山と高原地図」のアプリを活用
利用状況&アンケートで最新登山事情が浮き彫りに！

昭文社が「山の日」を控え最新登山事情を発表！

「山と高原地図」アプリに見るコロナ禍前後の登山客動向

～2019年から最新2022年までの利用実績+1500名以上のユーザーアンケート回答を調査分析～

株式会社昭文社ホールディングス（本社：千代田区麹町、代表取締役社長 黒田茂夫、東証コード：9475）とその子会社である株式会社昭文社（本社：千代田区麹町、代表取締役 川村哲也、以下昭文社）は、コロナ禍前後の、登山者の行動と意識変化の実態を把握する目的として実施した、昭文社運営の「山と高原地図」アプリの利用状況とユーザーアンケートの調査・分析結果を、「山の日」を控えた2022年8月4日より公開いたします。

本リリースは「ダイジェスト版」となります。調査の詳細は特設ページにて公開しております。

特設ページ URL⇒ <https://www.mapple.co.jp/blog/19825/>

新型コロナウイルス感染症が再拡大する中で、2022年の登山シーズンが佳境に突入している現在、コロナ禍を経た人々と「山」とのつきあい方を改めて考察してみました。トピックスを発表いたします。

- アプリDL数TOP3は不動！「槍ヶ岳・穂高岳」「八ヶ岳」「北岳・甲斐駒」の人気に揺るぎなし
- 今シーズンは、日帰り可能でバラエティーに富んだコースの多いエリアが人気上昇傾向
- コロナ禍の影響？夏山シーズンを越える勢いで「秋ピーク」が到来
- 「登山歴10年以上」のベテランの5割近くが「コロナ禍で登山頻度が減った」と回答
- コロナ禍を受け「日帰り登山が多くなった」との回答多数。宿泊登山の復活に注目

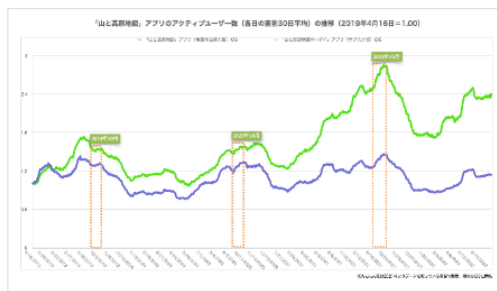
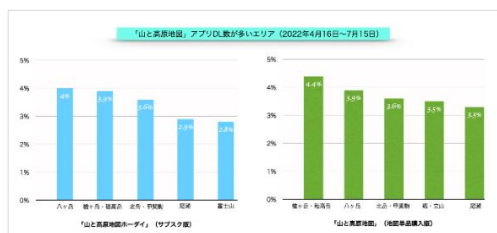
)) 分析&調査結果から注目点をピックアップ ((

■ アプリDL数TOP3は不動！「槍ヶ岳・穂高岳」「八ヶ岳」「北岳・甲斐駒」の人気に揺るぎなし

2022年4月16日～7月15日における「山と高原地図」アプリ全61エリアの総DL数に占める、各エリアの割合を計算した結果、「山と高原地図ホーダイ」アプリDL数のTOP3が「槍ヶ岳・穂高岳」「八ヶ岳」「北岳・甲斐駒」の3エリアに集中していることがわかりました。

■ コロナ禍の影響？夏山シーズンを越える勢いで「秋ピーク」が到来

2019年4月16日～2022年7月15日における「山と高原地図」アプリのアクティブユーザー数（各日の直前30日平均）の推移をグラフにまとめると、コロナ禍前の2019年からの3年間に、大きな変化が起きていることが見えてきました。これがコロナ禍の影響による一過性のものか、今後も定



着するのか、非常に注目すべき事象と言えます。

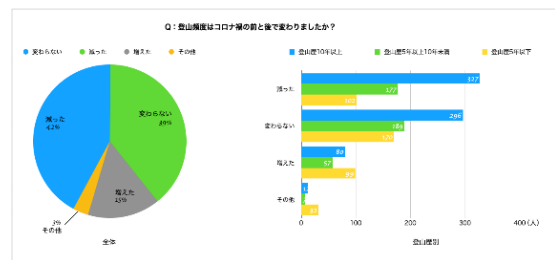
【グラフ解説】2019年は、5月と8月に利用ピークがありました。そしてコロナ禍の影響を大きく受けた2020年は、5月のアクティブユーザーが例年より大幅に減少。その反動からか10月頃に前例のない「秋ピーク」を迎えました。

2021年もコロナ禍の影響があったものの、数字的には2019年と同等か上回っています。例年通りに5月と8月にピークがある一方、10月にもハイシーズン並みの「秋ピーク」が来しました。特に「山と高原地図ホーダイ」アプリ（サブスク版）は、2021年を見る限り、春山・夏山のピークと比較すると「秋ピーク」の傾向がより顕著です。

山と高原地図編集部コメント：「登山はコロナ禍においても、オープンエアという環境であるが故に、密を避け、爽快なおでかけを楽しめるということから、新たなファンやリターンユーザーが一定数増えたのではないかと推測しています。『山と高原地図』アプリユーザーのみのデータではありますが、（中略）ある程度登山者のトレンドを捉えているものと考えられます。感染者数の推移や登山の手助けとなり得る観光政策など、様々な要因が絡む部分ではありますが、今後の登山者の動きと時勢の関係性については、興味深いものがあります。」

■ 「登山歴10年以上」のベテランの5割近くが「コロナ禍で登山頻度が減った」と回答

2022年7月14日～7月24日の間に「山と高原地図」アプリユーザーを対象に実施したアンケートで、「登山頻度はコロナ禍の前と後で変わりましたか」（単一回答）の設問に対しては、全体的に「変わらない」（42%）が最も多く、「減った」（39%）、「増えた」（15%）、その他（3%）と続きました。登山歴別に分析すると、登山歴10年以上の登山者の5割近くが「減った」と回答、他に比べて減少幅が大きい、という結果となりました。



山と高原地図編集部コメント：「登山歴10年以上で頻度が『減った』と回答したユーザーがよく登る山をさらに分析したところ、その6割以上が『近郊、近隣の山を中心に選ぶようになった』との回答でした。コロナ禍でも安心安全な登山を楽しめるよう、多くの方が工夫を凝らし、登山を続けていたことがうかがえます」

)) 調査分析概要 ((

本調査分析結果は2部構成となります。前半は一定期間^{※1}内の「山と高原地図」アプリの合計ダウンロード数^{※2}、および「山と高原地図」アプリ（地図単品購入版）のiOS版アクティブユーザー数（各日の直前30日平均）の集計・分析結果です。後半は2022年4月16日～7月15日の間に、「山と高原地図ホーダイ」アプリ（サブスク版）ユーザーを対象に実施したアンケート結果（有効回答数：1548サンプル）を元にまとめた動向・意識調査です。

※1 集計期間：「山と高原地図ホーダイ」アプリ（サブスク版）iOS版・Android版合計DL数：2022年4月16日～7月15日、

「山と高原地図」アプリ（地図単品購入版）iOS版・Android版合計DL数：2022年4月16日～7月15日、2019年4月16日～7月15日、

「山と高原地図」アプリ（地図単品購入版）iOS版アクティブユーザー数：2019年4月16日～2022年7月15日

※2 「山と高原地図」アプリ（地図単品購入版）・「山と高原地図ホーダイ」アプリ（サブスク版）のiOS版・Android版合計

)) 本調査分析結果の全貌をWEBサイトでも公開中 ((

今回の調査では、記述式の自由回答も多数いただきました。全貌を特設ページにて公開中です。

MAPPLE×新しいスタイル [山の日に「山」を改めて考える。「山と高原地図」アプリ分析&アンケートから紐解く「アフターコロナの最新登山事情」](#)